

実践報告資料

研究テーマ『一人ひとりの人権を尊重する精神を培い、こころ豊かな児童の育成をめざして』

研究内容【(1)、(2)、(3)、(4)】

学校名（たつの市立揖保小学校）

<p>ア 人権教育としてのねらい 積極的に人と関わる活動を通して、自尊感情を育むとともに自他理解を向上させ、進んで共感し合う集団を育てる。そして、自分を認め、認められ、大切に感じることのできる学校づくりをめざす。</p>				
<p>イ 研究の概要 児童の自主自立の意識を高め、基本的な生活習慣の確立と基礎・基本の定着に努める。さらに、地域に根ざした人権教育を推進し、児童の自覚・向上を図り、差別をなくそうとする実践力を育てる。そして、認め合い、支え合い、高め合う集団作りを通して人権尊重の精神に徹し、差別をなくそうとする意欲を高める。</p>				
領域	教科	道徳 (特別の教科 道徳)	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	4年担任 推進教員	推進教員 6年担任	全教職員	5年担任 推進教員
実施日	12月6日	12月4日	通年	11月15日
取組名	いろいろな音のひびきを感じとろう	部落差別解消推進法から考える	うれしい! たのしい! だいすき! みんなでつくるみんなの学校	皮から革へ
目 標	まとまりを意識した音楽をどのように作るかについて、自分の思いや意図をもち、伝え合うことができる。	差別のない社会の実現に向けて、差別を許さずなくそうとする立場について考えることをとおして、自分自身の問題としてとらえ、解決していこうとする意欲を高める。	異年齢の友達と関わり合う中で、各自の良さが認められる場を保障し、自尊感情を育む。	たつこの革の良さを広めるために努力する人の思いに気づき、地域の皮革産業に誇りをもつ。さらに、自分たちも「たつのレザージュニア」として、活動を進める。
資料名	いろいろな音のひびきを感じとろう	部落差別解消推進法から考える	/	未来へ広がれ、たつのレザー
指導内容や指導方法の工夫等	様々な楽器の音色や材質を知り、鳴らし方やリズムを工夫しながら演奏させる。 グループで演奏させ、音の重なりから生み出されるよさや面白さを感じとらせる。	事前のアンケート結果、市の意識調査の結果をもとに、人権が尊重される社会について考えさせる。 差別をする側、受ける側だけではなく、無関心である立場を変えていくことが最も大切であると気づかせるようにする。	月に1回の代表委員会を開き、「うれしい! たのしい! だいすき! みんなでつくるみんなの学校」をテーマにイベントの企画・運営に取り組みさせる。 より良い生活習慣(あいさつ・雨の日の過ごし方)を実現するために、全校でのつながりを深くするようにする。	資料や工場見学をもとに、たつのレザーを世界に広めようとした人の思いに迫らせ、伝統ある革の良さを多くの人に広めたいという熱い思いがあったことに気づかせる。 自分たちもたつのレザー「ジュニア」として広める活動をすることで、より自分ごととして考えられるようにする。

実施日：11月15日 ※本単元の学習時期は、2、3学期間（9～3月）	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名：皮から革へ	
対 象：5年生	実施場所：5年教室
ア ねらい たつの市の革の良さを広めるために努力する人の思いに気づき、地域の皮革産業に誇りをもつ。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科の学習と関連させ、たつの市の地場産業について知る。（事前） ・ 食肉衛生検査所の方を招き、食と命、衛生検査の大切さを学ぶ。（事前） ・ 皮革工場の方をお招きし、ペンケース作りを行う。（事前） ・ 皮革工場に工場見学に向かい、皮から革への工程を学ぶ。（事前） ・ たつの市の革の良さを広めるために努力する人の思いに気づき、地域の皮革産業に誇りをもつ。（本時） ・ 他学年に向け、「たつのレザージュニア」の広報活動を行う。（事後） 	
ウ 連携先：皮革工場（モリヨシ）西播磨食肉衛生検査所 TATSUNO LEATHER 他学年	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ たつの市人権教育推進課を通じて連絡を取り、皮革工場見学に行かせていただいたり、食肉衛生検査所の方から話を聞いたりする。 ・ 革細工体験を行い、児童が革製品を身近に感じられるきっかけとする。 ・ 学習のまとめを行い、他学年に向けて「たつのレザージュニア」の発表を行う。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種アンケートや、スライドの一部を chromebook を使って作成、共有することで、話し合い活動が活発になった。 ・ 活動の写真を Google drive で共有することで、ふり返りが容易となった。 ・ 「たつのレザー」の「ジュニア」として、活動を行う際、「広報」「総務」「動画作成」「イメージアップ」などに分かれて話し合いを行うことで、児童全員が主体的に活動するきっかけとなった。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合（いいほ）ノート ・ ワークシート 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童は、たつの市の地場産業である皮革産業や、皮革製品をより身近に感じることができるようになった。 ・ 皮革産業や、これからのたつの市の産業について、身近な課題として考えられるようになりつつある。 ・ 児童は、他学年に向けて発表をしたことで、学校全体で皮革産業への興味関心が広がったと考える。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べ学習だけで終わらないように、体験やゲストティーチャーを招いて学習を進めていったが、自分ごととして考えさせたり、まとめさせたりすることが難しかった。 ・ 「たつのレザージュニア」として、各課に分かれてPRを図っているが、「だれに伝えたいのか」が個人によって異なり、PRの仕方について考えさせることが難しい。 	

実施日：通年 ※本単元の学習時期は、1～3学期間（5～3月）	
領 域：特別活動	
取組名：うれしい！たのしい！だいすき！みんなで作るみんなの学校	
対 象：全学年	実施場所：体育館、教室など
ア ねらい 異年齢の友達と関わり合う中で、各自の良さが認められる場を保障し、自尊感情を育む。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> 月に1回の代表委員会を開き、「うれしい！たのしい！だいすき！みんなで作るみんなの学校」をテーマにイベントの企画・運営に取り組ませる。 より良い生活習慣（あいさつ・雨の日の過ごし方）を実現するために、全校でのつながりを深くするようにする。 2学期では全校で「いぼっこわくわく文化祭」（冬の児童会集会）を実施し、高学年だけでなくすべての児童が自由に参加し、発表の場をとれるようにした。 3学期は「6年生を送る会」の実施に向けて、企画・運営を進めている。 	
ウ 連携先：全校生	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> 高学年だけの思いや願いで運営をすることなく、他学年から「会議係」などの担当を決め、全校での取組となるようにした。また、会議係についても輪番制とし、できるだけ多くの児童に活躍の機会があるようにした。 各委員会での取組内容を可視化するため、「わくわく掲示板」を設置し、低学年の児童にも分かりやすくイベントや取組が周知できるようにした。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> 各種アンケートや、スライドの一部を chromebook を使って作成、共有することで、話し合い活動が活発になった。 一年間を見通した活動ができるように、年度初めに必ずテーマを計画させ、その都度見直しと振り返りをとるようにした。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ワークシート ・ スライド 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> これらの活動を通して、少しずつではあるが、自分たちの思いを自分たちで形にしていく意欲につながってきている。また、それをみんなで共有することの意義を感じ始めてきた。 一部の児童だけが企画運営をすることなく、すべての児童が主体的に活動できるようになった。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> 単年だけの活動にすることなく、持続可能な形で児童会の運営を進めていくこと。 教師主導ではなく、さらに児童主導となった活動にしていくこと。 	

実施日：12月4日	
領 域：特別の教科 道徳	
取組名：部落差別解消推進法から考える	
対 象：6年生	実施場所：6年教室
ア ねらい 差別のない社会の実現に向けて、差別を許さずなくそうとする立場について考えることをとおして、自分自身の問題としてとらえ、解決していこうとする意欲を高める。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科の学習と関連させ、人権の歴史について学ぶ。（事前） ・ 人権についてのアンケートを事前に行い、たつの市の結果と比較させる。 ・ 人権尊重都市宣言、部落差別の解消の推進に関する条例から、差別のないたつの市にするための取組や行動について考える。 	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 親子読書 ・ 掲示物 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に1度親子読書の日を設定し、兵庫県道徳副読本や道徳の教科書の教材等を親子で読み合い、感想を共有する。 ・ 学習のふり返りを掲示物にし、参観日やオープンスクールで周知を図る。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合（いいほ）ノート ・ ワークシート 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権カリキュラムと社会科の学習を並行して進めていくことにより、児童は人権獲得の歴史について円滑に学んでいくことができた。 ・ 差別された人々、差別を行った人々だけでなく、傍観する人々について話し合ったことで、より自分ごととしてこの問題について意見を出し合うことができた。 ・ 差別を受ける人だけでなく、差別を行う人、傍観する人などの様々な立場で話し合うことができた。「差別をすることはいけない」といった、意識的な意見にとどまらず、行動面についても意見を出すことができた。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 部落問題は、今でも残る差別であり、扱いには十分配慮を要する問題である。今後の学習についても、カリキュラムだけでなく児童の実態に合わせた学習が必要だと感じた。 ・ 「自分ごと」として考えさせつつも、明るい展望をもたせて授業を終えることの大切さや、事後の児童の様子について、今後も様子を見ていくことが肝要である。 	

実施日：12月6日	
領域：音楽	
取組名：いろいろな音のひびきを感じとろう	
対象：4年生	実施場所：音楽室
<p>ア ねらい</p> <p>楽器の音色の特徴を生かして楽器を組み合わせ、音の重なりから生み出されるよさや面白さを感じとりながら、まとまりを意識した音楽をどのように作るかについて、自分の思いや意図をもち、伝え合うことができる。</p>	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。また、打楽器一つ一つを紹介する際、それぞれの音色の特徴についておさえておく。 ・ 組み合わせる打楽器を考え、ワークシートに書く。ワークシートには、選んだ楽器とその理由についてまとめておく。 ・ ワークシートの「中」の部分について音楽づくりを進める。様々な音の組み合わせを楽しめるように、ホワイトボードにマグネットを貼り、自由に操作できるようにする。 ・ 本時のふり返しをする。自分で考えたことや工夫したことだけでなく、他のグループとも交流する時間をとり、次時への意欲を高めさせる。 	
ウ 連携先：	
エ 連携にむけての取組	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ活動の時間を多くとるため、本時の流れを掲示し、児童が活動の見通しをもてるようにする。 ・ より良い音楽をつくるために、音の重なりを工夫して選んでいけばよいことに気づかせ、楽器の組み合わせの面白さについて考えさせる。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート 	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童は、音の重なりのおもしろさを楽しみ、それぞれの楽器の特徴を生かしながら音楽づくりを楽しむことができた。 ・ 自分たちの音の重なりを楽しませながら、グループ以外の音楽に対しても積極的に意見を交わすことができた。 ・ 「音の重なり」「まとまりを意識した音楽」など、音楽的知識を大切にし、児童が話し合うときにこれらの言葉を使っていたことが良かった。楽しみながら、学習を意識できていた。 	
<p>ク 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器に触れさせる機会を日ごろからとっておくことが大切だと感じた。音楽づくりを楽しむ時間に、演奏方法を指導する時間をとることが難しい。 ・ 評価の方法が難しい。ワークシートの記述だけでは、児童の見取りをすることが十分ではなかった。ChromebookなどのICT機器を使い、録画をするなど、客観的な評価の方法が必要だと考える。 	